

第 2 次伊豆の国市総合計画後期基本計画

# 令和 4 年度進捗状況について

## 内 部 評 価

※政策の柱ごとの取りまとめシートは、「別冊」にまとめております。

令和 5 年 11 月

伊豆の国市

## 目次

はじめに	1
1 第2次総合計画の体系図	2
2 令和4年度重点取組一覧	4
3 伊豆の国市総合計画後期基本計画の概要	7
4 後期基本計画における進捗管理方法の考え方	7
5 基本方針毎の内部評価及び検証	8
6 総合計画全体の内部評価	23
7 令和4年度進捗状況一覧表	24
別冊 政策の柱ごとの取りまとめシート	1～54

## はじめに

第2次伊豆の国市総合計画の推進にあたっては、基本構想に掲げた「将来像」や「まちづくりの基本方針」の達成に向け、基本計画に位置付けた政策の柱や主要施策が効果的・効率的に推進しているか、毎年度、自己評価や外部評価を通して点検していきます。

後期基本計画のスタート年である令和4年度の結果について、各部署が重点・懸案事項として位置付けた重点取組を中心に、事業の内容や実施状況等を点検しました。

# 1 第2次総合計画の体系図

基本構想	
<b>将来像</b> ほんわり湯の国、美し国、歴史文化薫る国、未来を拓く伊豆の国	<b>基本理念</b> ■ 共生と調和 ■ 継承と創造 ■ 自助・共助・公助
	<b>1</b> 豊かな自然に抱かれる伊豆の国市(自然・生活環境) <b>【施策の大綱】</b> ○ 自然環境の保全と景観の向上 ○ 快適な生活環境の創造
	<b>2</b> 伊豆の国市にしごとをつくる(産業・経済・労働) <b>【施策の大綱】</b> ○ 地域を支える人材の就労支援 ○ 地域特産品の競争力の強化 ○ 地域産業の活性化と新たな雇用の創出
	<b>3</b> 伊豆の国市に新しいひとの流れをつくる(観光・交流) <b>【施策の大綱】</b> ○ 移住・定住の促進 ○ 観光推進体制の強化と交流人口の拡大 ○ 情報発信力の強化とおもてなしの充実
	<b>4</b> 歴史に学び、未来を拓く伊豆の国市(歴史・文化・芸術) <b>【施策の大綱】</b> ○ 歴史・文化・芸術を生かしたひとづくり・まちづくりの推進 ○ 次代を拓く教育と研究の推進
	<b>5</b> 子育ても人生も楽しい伊豆の国市(健康・福祉) <b>【施策の大綱】</b> ○ 結婚・出産の支援 ○ 子育て環境の充実 ○ 健康長寿を目指すまちづくりの推進 ○ 誰もが安心して暮らしていける地域社会の実現
	<b>6</b> 安全で安心な伊豆の国市のまちづくり(都市基盤・防災・減災) <b>【施策の大綱】</b> ○ 災害を見越した防災・減災のまちづくりと安全・安心なまちづくりの推進 ○ 持続可能なまちづくりの推進
<b>7</b> みんなで創る伊豆の国市(行財政運営・自助・共助・公助) <b>【施策の大綱】</b> ○ 自助・共助・公助のまちづくりの推進 ○ 効率的な行財政運営の推進	

政策の柱	主要施策
1-1 自然と共生するふるさとづくり	1) 森林保全・河川活用の推進 2) 脱炭素社会に向けた取組の推進
1-2 魅力ある景観形成の推進	1) 伊豆の国らしさ溢れる風景の形成 2) 自然環境を活かした空間の形成
1-3 快適な生活環境の充実	1) 住みよい生活環境の推進 2) 資源循環の推進
2-1 就労・雇用への支援	1) 就労・起業への支援 2) 企業への支援 3) ウィズコロナ・ポストコロナに向けた支援
2-2 魅力ある農業の振興	1) 新規就農者への支援 2) 持続可能な営農環境の構築 3) 優良農地の保全 4) 新たなマーケット獲得に向けた取組促進
3-1 訪れたいまちづくり	1) 旬を活かした魅力の発信 2) 観光基盤の整備 3) 関係人口の創出・拡大
3-2 ふれ合う、味わう、感じる観光の推進	1) 地域資源の活用 2) 広域観光の振興
4-1 歴史・文化・芸術を活かすまちづくり	1) 歴史資産の保護 2) 文化・芸術の振興 3) 郷土資産を学ぶ機会の創出
4-2 未来を築く教育の推進	1) 地域とともにある教育環境づくり 2) 確かな学力を身に付ける教育環境の整備 3) 生きる力を育む教育の充実
4-3 生涯学習の充実	1) 生涯学習の環境整備 2) 世代別の生涯学習の推進 3) 地域における生涯学習の推進 4) 生涯スポーツの推進
5-1 子育て支援の充実	1) 切れ目のない育児支援 2) 働く子育てを両立できる環境の整備 3) 地域子育て環境の充実
5-2 健康づくりの推進	1) 健康寿命の延伸 2) 食育の推進
5-3 高齢者福祉の推進	1) フレイル予防・介護予防 2) 在宅高齢者への支援 3) 持続可能な介護サービスの推進
5-4 障がい者福祉の推進	1) 障害福祉サービス等の充実 2) 障がいに対する理解促進と意識啓発
5-5 地域福祉体制の充実	1) 包括的な相談支援体制の強化 2) 見守り体制の確立
6-1 自助・共助・公助による防災の強化	1) 自助防災の強化 2) 共助による防災体制の確立 3) 危機管理体制の充実 4) 自然災害対策の強化
6-2 安心できる医療体制の整備・充実	1) 身近な医療体制の整備・充実 2) 感染症への対応力の強化
6-3 生活安全対策の推進	1) 交通安全の推進 2) 防犯対策の推進 3) 安全な消費生活の推進
6-4 効果的な都市機能の推進	1) 生活基盤の適正な管理 2) 住みやすさ向上の推進 3) 地域の特性に応じた交通ネットワークの整備
7-1 みんなが主役のまちづくり	1) 多様性を尊重するまちづくりの推進 2) 官民連携によるまちづくり
7-2 信頼される行財政運営	1) 広報活動の強化 2) 広聴活動の充実 3) デジタル社会の形成 4) 計画的・効率的な行政経営

## 2 令和4年度重点取組一覧

### まちづくりの基本方針1

	重点取組
政策の柱1-1 自然と共生するふるさとづくり	森林環境整備促進事業
	水辺空間の活用
	治山工事に伴う支障物(廃プラスチック)の撤去と処理に向けた調整
	かわまちづくり公園の整備
	森林環境整備促進事業
	地球温暖化対策の推進、再生可能エネルギーの普及啓発
	脱炭素社会に向けた取組
政策の柱1-2 魅力ある景観形成の推進	かわまちづくり公園の整備
	花いっぱい景観づくり
	源氏山公園の整備
政策の柱1-3 快適な生活環境の充実	公害等への対策
	動物愛護の推進
	焼却施設解体事業
	伊豆の国市斎場におけるペット火葬方法の検討
	長岡斎場の跡地利用の検討
	源氏山公園の整備
	ごみ処理手数料の改定
	適正な廃棄物処理
	長岡最終処分場の廃止
	資源化施設の集約化
	下水道未普及地域の解消

### まちづくりの基本方針2

	重点取組
政策の柱2-1 就労・雇用への支援	伊豆の国市商工業振興ビジョンの策定
	パン祖のパンまつり実施事業
	プレミアム付商品券事業
	街路灯LED化推進事業
政策の柱2-2 魅力ある農業の振興	有機農業の促進
	耕作放棄地対策事業
	地域農業活性化事業(中山間農地関係)

### まちづくりの基本方針3

	重点取組
政策の柱2-2 魅力ある農業の振興	大河ドラマ活用の推進
	移住定住促進の取組
	都市交流(英語圏交流の検討)
政策の柱3-2 ふれ合う、味わう、感じる観光の推進	観光まちづくりの推進

#### まちづくりの基本方針 4

	重点取組
政策の柱 4-1 歴史・文化・芸術を活かすまちづくり	埋蔵文化財発掘調査報告書の作成 郷土資料館の時代劇場（大河ドラマ館跡地）への移転 アクセスのタベ有料化の検討 博物館建設構想 長岡総合会館・葦山文化センター維持管理事業
政策の柱 4-2 未来を築く教育の推進	教育大綱の作成 教師の ICT 活用指導力の向上 園児が英語に親しむ機会の創出
政策の柱 4-3 生涯学習の充実	電子図書館の導入と郷土資料デジタル化の推進 施設予約の簡略化に向けた制度設計 20 歳（はたち）のつどいの実施 地域学校協働本部の拡充・強化 元旦マラソン&ウォーキング大会 市駅伝大会

#### まちづくりの基本方針 5

	重点取組
政策の柱 5-1 子育て支援の充実	効率的・効果的な放課後児童教室の運営 （仮称）長岡認定こども園の設計の実施 遠距離通学・通園に対する助成の見直し 公立幼稚園・保育園の統廃合 長岡保育園移転に伴う認定こども園化推進事業
政策の柱 5-2 健康づくりの推進	子宮頸がんワクチン接種事業 生活保護被保護者健康管理支援事業の推進
政策の柱 5-3 高齢者福祉の推進	陽伊豆る国構想への協力 高齢者保健福祉施策の検討 高齢者の保健事業と介護予防の一体化の実施に向けた庁舎内調整
政策の柱 5-4 障がい者福祉の推進	心身障害者（児）タクシー等利用助成の検討
政策の柱 5-5 地域福祉体制の充実	民生委員児童委員活動の推進 包括的な相談支援体制の確立 包括的支援事業の体制見直し 犯罪被害者への相談支援 地域福祉計画の策定

## まちづくりの基本方針6

	重点取組
政策の柱6-1 自助・共助・公助による 防災の強化	防災力強化の推進 消防団活動の推進 災害時の避難所、福祉避難所体制の構築 災害救急医療対策事業 準用河川洞川の拡幅改良
政策の柱6-2 安心できる医療体制の整備・充実	新型コロナウイルスワクチン予防接種事業
政策の柱6-4 効果的な都市機能の推進	庁舎機能整備の検討 公共施設再配置の推進 教育施設の適正な維持管理 財産管理の取組 下水道の維持更新 深沢橋の架替 伊豆エメラルドタウン簡易水道事業の創設認可の取得 民営簡易水道の移管 かわまちづくり公園の整備 源氏山公園の整備 市街化調整区域の活用方法の検討 地域公共交通事業の評価及び地域のニーズ調査

## まちづくりの基本方針7

	重点取組
政策の柱7-1 みんなが主役のまちづくり	地区要望の提出方法の見直し 市民活動団体等との連携促進
政策の柱7-2 信頼される行財政運営	コミュニティFMの推進 市政情報の積極的な発信 庁内事務のデジタル化の推進 マイナンバーカードの発行 公文書の管理（電子決裁の導入） DXの推進 基幹業務等システムの統一・標準化に関すること 総合計画の推進 効率的・効果的な財政運営 ふるさと寄付金推進事業 効率的な国民健康保険税の徴収 登記履歴の効率的な管理体制の構築 課税事務における業務の効率化 効率的な納税体制の構築 行財政改革の推進 職員の人材育成 地方公務員の定年延長への対応 職員人事評価制度の見直し 適正な職員人事配置 水道事業の広域化について 下水道使用料の見直し

### 3 伊豆の国市総合計画後期基本計画の概要

#### (1) 目的・位置付け

第2次総合計画を、総合的かつ計画的なまちづくりを推進する市政の最上位計画に位置付けている。そして、分野別計画は、この総合計画と整合を図って進めていく。

また、国、県、市民、民間等に対して市の基本的な考え方を明らかにし、市と市民や民間との連携の指針としての役割を担っていく。

基本計画は、将来像を実現するための「主要施策」を分野別に示すもの。後期基本計画では、基本構想に掲げる7つの「まちづくりの基本方針（施策の大綱を含む。）」を踏襲しつつ、基本方針と主要施策の関連性を強めるため、21の”政策の柱”を新設した。

7つの基本方針に体系づけられた「政策の柱」は、「目指すまちのすがた」「現状と課題」「主要施策」「指標」で構成している。

#### (2) 計画期間

令和4年度から令和7年度までの4年間

### 4 後期基本計画における進捗管理方法の考え方

- ・「目指すまちのすがた」に寄与した取組実績・成果をあげていく。  
⇒総合計画の将来像や目指すまちのすがた自体、数値で測ることは困難であるため、「目指すまちのすがた」に向かって、どのような取組を行ったか、またはどのように寄与したかを点検していく。
- ・指標は『点検』のためのものさし  
⇒指標は、「成果」を測るものではなく「施策の見直しと改善を行うときの『点検』のためのものさし」として活用していく。

#### 【ものさしの例】

区分	判断基準 (令和4年度における進捗状況)
 (好転)	基準値（前回の値）より好転した。
 (維持)	基準値（前回の値）を維持した。
 (後退)	基準値（前回の値）より後退した。

今後、客観的かつ公正な評価をするため、外部有識者による評価をいただく。また結果については、本市公式ホームページ上で公表する。

## 5 基本方針毎の内部評価及び検証

### (1) 評価の見方

第2次総合計画の実現に向け、市政の基本的な考えを示した(7つの)「まちづくりの基本方針」ごとに評価を行いました。

令和4年度の実績の中で、新規・拡充した取組の主だった成果や、計画していたが実施できなかった取組、後期基本計画の主要施策として掲げていたが取組が希薄だったものなどを踏まえ、今後についての展望や令和5年度の実績などを示しています。

後期基本計画のスタート年である令和4年度は、各部署が重点・懸案事項として位置付け重点取組を中心に、事業の内容や実施状況等を点検しました。

後期基本計画では、指標を、成果を図る物差しの一つとして設定しています。令和4年度の指標が公表されたものを記載しています。

### 第2次総合戦略後期基本計画【令和4年度進捗状況】

まちづくりの基本方針1	豊かな自然に抱かれる伊豆の国市【自然・生活環境】
	豊かで美しい自然やおいしい水がある環境、美肌の湯は、本市のまちづくりも大切な基盤であり、市民の誇りでもあります。これら環境を、市と市民や民間相互に連携し、環境意識を向上させ、次代への継承を目指します。 市民や民間とともに、環境負荷の少ないまちづくりを一層進め、快適で潤いある生活環境の創造を目指します。

#### ■評価

「まちづくりの基本方針1 豊かな自然に抱かれる伊豆の国市」の実現に向けて、後期基本計画3つの政策の柱を掲げ取り組んでいます。

令和4年度は、政策の柱にひもづく21の重点取組を掲げ取り組みました。

主な成果としては、.....

#### ■重点取組

政策の柱 1-1	重点取組
自然と共生するふるさとづくり	森林環境整備促進事業
	水辺空間の活用
	治山工事に伴う支障物(廃プラスチック)の撤去と処理に向けた調
	かわまちづくり公園の整備
	森林環境整備促進事業
政策の柱 1-2	重点取組
魅力ある景観形成の推進	かわまちづくり公園の整備

#### ■指標

指標名	基準値	進捗状況	目標値	指標の説明
市全域における二酸化炭素の排出量	298千トン	258千トン 	230.1千トン	市内の産業部門、家庭運輸部門、廃棄物分野排出される年間二酸化総排出量

基準値/平成30年度実績値

指標名	基準値	進捗状況	目標値	指標の説明
景観まちづくり学習の実施回数	1回	1回 	2回	小学校での総合学習出や市民向け講演会・講

基準値/令和3年度実績値

## 第2次総合計画後期基本計画【令和4年度進捗状況】

まちづくりの 基本方針1	豊かな自然に抱かれる伊豆の国市〔自然・生活環境〕
	豊かで美しい自然やおいしい水がある環境、美肌の湯は、本市のまちづくりの最も大切な基盤であり、市民の誇りでもあります。これら環境を、市と市民や民間が相互に連携し、環境意識を向上させ、次代への継承を目指す。 市民や民間とともに、環境負荷の少ないまちづくりを一層進め、快適で潤いのある生活環境の創造を目指す。

### ■評価

「まちづくりの基本方針1 豊かな自然に抱かれる伊豆の国市」の実現に向けて、後期基本計画では3つの政策の柱を掲げ取り組んでいる。

令和4年度は、政策の柱にひもづく21の重点取組を掲げ取り組んだ。

主な成果としては、令和5年10月に供用を開始したかわまちづくり公園の整備に着手したことや、大河ドラマ館おもてなし花壇を整備する団体へ花の苗等を支給するなど、自然・生活環境の向上に寄与した。

一方、地球温暖化対策の推進、脱炭素社会に向けた取組として、小水力発電の可能性について調査を行ったが実施の可能性が低いことが判明したことから、小推力発電以外の脱炭素の取組に向けた調査を強化しつつ地球温暖化対策に取り組んでいく。

今後は、かわまちづくり公園（川の駅伊豆城山）、源氏山公園の整備や、治山工事に伴う支障物の撤去などを確実に進めていくほか、より効果的・効率的な取組に重点を置いて実施していく。

### ■重点取組

政策の柱1-1	重点取組
自然と共生するふるさとづくり	森林環境整備促進事業
	水辺空間の活用
	治山工事に伴う支障物(廃プラスチック)の撤去と処理に向けた調整
	かわまちづくり公園の整備
	森林環境整備促進事業
	地球温暖化対策の推進、再生可能エネルギーの普及啓発
	脱炭素社会に向けた取組

政策の柱1-2	重点取組
魅力ある景観形成の推進	かわまちづくり公園の整備
	花いっぱいの景観づくり
	源氏山公園の整備

政策の柱1-3	重点取組
快適な生活環境の充実	公害等への対策
	動物愛護の推進
	焼却施設解体事業

	伊豆の国市斎場におけるペット火葬方法の検討
	長岡斎場の跡地利用の検討
	源氏山公園の整備
	ごみ処理手数料の改定
	適正な廃棄物処理
	長岡最終処分場の廃止
	資源化施設の集約化
	下水道未普及地域の解消

## ■指標

指標名	基準値	進捗状況	目標値	指標の説明
市全域における二酸化炭素の排出量	298千トン	258千トン	230.1千トン	市内の産業部門、家庭部門、運輸部門、廃棄物分野等から排出される年間二酸化炭素の総排出量
				

基準値／平成30年度実績値

258千トン（令和2年度）で、平成30年度実績より排出量が少なかった。コロナ禍で人の流れが少なかったという要因が考えられる。

指標名	基準値	進捗状況	目標値	指標の説明
景観まちづくり学習の実施回数	1回	1回	2回	小学校での総合学習出前授業や市民向け講演会・講座を実施した年間回数
				

基準値／令和3年度実績値

指標名	基準値	進捗状況	目標値	指標の説明
市民1人1日当たりのごみ排出量	932g	972g	932g	市内で発生する一般廃棄物の年間総量を市民1人1日当たりで除して算出した量
				

基準値／令和2年度実績値

※市内人口は減少傾向にあるが、過去の推移によると、一般廃棄物の年間総量は年々上昇傾向にある。現状のまま推移すると、市民1人1日あたりのごみ排出量は増加が見込まれるため、増加抑制を目指し、基準値と同値を設定。

## 第2次総合計画後期基本計画【令和4年度進捗状況】

まちづくりの 基本方針2	伊豆の国市にしごとをつくる（産業・経済・労働）
	農業、観光産業、医療・福祉産業、これら3つを核として、産業全体の活性化を進めるとともに、市民が期待する就業機会の確保を目指す。

### ■評価

「まちづくりの基本方針2 伊豆の国市にしごとをつくる」の実現に向けて、後期基本計画では2つの政策の柱を掲げ取り組んでいる。

令和4年度は、政策の柱にひもづく7の重点取組を掲げ取り組んだ。

主な成果としては、コロナ禍における市内経済の活性化及び生活支援を目的としたプレミアム付商品券を市商工会を介して3回に分けて販売したことや、耕作放棄地対策の一環として新たな補助制度を導入するなど、市内産業の活性化を図った。

今後は、ウィズコロナ時代に対応した取組や、若者の就労・起業に向けた具体的な支援などを盛り込んだ伊豆の国市商工振興計画を着実に策定していく必要がある。また、後継者不足が続く農業においては、新規就農者獲得に向けたさらなる取組や愛される農産物作りに向けた有機農業などのブランド化についても取り組んでいかなければならない。

### ■重点取組

政策の柱2-1	重点取組
就労・雇用への支援	伊豆の国市商工業振興ビジョンの策定
	パン祖のパンまつり実施事業
	プレミアム付商品券事業
	街路灯LED化推進事業

政策の柱2-2	重点取組
魅力ある農業の振興	有機農業の促進
	耕作放棄地対策事業
	地域農業活性化事業（中山間農地関係）

### ■指標

指標名	基準値	進捗状況	目標値	指標の説明
市内総生産額	1,912億円	1,925億円	2,000億円	市内で産出された付加価値の年間推計総額

基準値／平成30年度推計値

指標名	基準値	進捗状況	目標値	指標の説明
市内農業生産額	47.6億円	45.9億円	50億円	市内で農業により生産された農産物及び加工農産物の年間推計総産出額

基準値／令和元年度推計値

## 第2次総合計画後期基本計画【令和4年度進捗状況】

<b>まちづくりの 基本方針3</b>	伊豆の国市に新しいひとの流れをつくる（観光・交流）
	<p>本市の持続的な発展を維持するため、今後も転入超過を継続できるよう、移住の促進や受入体制づくりを進め、定住人口の拡大を目指す。</p> <p>世界遺産に登録された韮山反射炉をはじめとして、豊かな自然環境や美しい景観、歴史的遺産等、地域資源を最大限に活用するため、観光推進体制を強化し、外国人旅行者を含めた観光交流人口の拡大を目指す。</p>

### ■評価

「まちづくりの基本方針3 伊豆の国市に新しいひとの流れをつくる」の実現に向けて、後期基本計画では2つの政策の柱を掲げ取り組んでいる。

令和4年度は、政策の柱にひもづく4の重点取組を掲げ取り組んだ。

主な成果としては、大河ドラマ館の入館者数が目標を大きく上回る結果となったことがあげられる。年間を通じた様々なイベントやドラマ館のリニューアルの実施、また、市民協働団体が主催したマルシェは12回を数え、にぎわいの創出や多くのリピーター獲得に繋がった。これら市民協働団体による成功事例は、市民のおもてなしの心の醸成に繋がり、今後の新たなまちづくり・地域づくりの契機に寄与した。

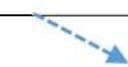
今後は、令和5年度から開始した英語圏との都市交流や、年々増加傾向にある移住者獲得に向けた新たな取組など、関係人口の創出にも注力していく必要がある。

### ■重点取組

政策の柱3-1	重点取組
訪れたくなるまちづくり	大河ドラマ活用の推進
	移住定住促進の取組
	都市交流（英語圏交流の検討）

政策の柱3-2	重点取組
ふれ合う、味わう、感じる観光の推進	観光まちづくりの推進

### ■指標

指標名	基準値	進捗状況	目標値	指標の説明
観光交流客数	1,930千人	1,901千人 	2,206千人	市内観光施設やイベント来場者数、旅館やホテルなどの宿泊者数の年間総数

基準値／令和元年度実績値

指標名	基準値	進捗状況	目標値	指標の説明
公共交通等を利用し市内を周遊した人数	12,315 人	18,120 人 	14,077 人	市内周遊バス利用者及びレンタサイクル利用者の年間総数

基準値／令和元年度実績値

令和3年度の12,315人から18,120人へ約1.5倍に増加した。理由としては、レンタサイクルのスポットが増えたことと、大河ドラマのロケ地をレンタサイクルで周遊するスタイルが定着してきた効果と考えられる。

## 第2次総合計画後期基本計画【令和4年度進捗状況】

まちづくりの 基本方針4	歴史に学び、未来を拓く 伊豆の国市 (歴史・文化・教育・研究)
	<p>歴史に学び、未来を拓くまちを目指すとともに、都市交流の推進により、文化・芸術活動が身近にある豊かな暮らしを目指す。</p> <p>次代を担う子どもに、これからの時代を生き抜くために必要な能力を身に付けるための教育環境づくりを目指す。</p>

### ■評価

「まちづくりの基本方針4 歴史に学び、未来を拓く伊豆の国」の実現に向けて、後期基本計画では3つの政策の柱を掲げ取り組んでいる。

令和4年度は、政策の柱にひもづく13の重点取組を掲げ取り組んだ。

主な成果としては、市の教育指針となる「伊豆の国市教育大綱」を作成したことや図書館に電子システムを導入したこと、地域学校協働本部の活動を支えたことなど、市の文化・教育等の向上に寄与した。

一方、令和4年度に計画していた郷土資料館の大河ドラマ館跡のスペースへの移転については、市民アンケートや意見交換会等の結果を踏まえ、実施を取り止めた。

今後は、「園児等が英語に親しむ機会の創出」を全幼稚園・保育園で着実に実施し、グローバル人材の育成につながる環境づくりに取り組んでいく。

### ■重点取組

政策の柱	重点取組
政策の柱4-1 歴史・文化・芸術を活かすまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>埋蔵文化財発掘調査報告書の作成</li> <li>郷土資料館の時代劇場（大河ドラマ館跡地）への移転</li> <li>アクシスのタベ有料化の検討</li> <li>博物館建設構想</li> <li>長岡総合会館・韮山文化センター維持管理事業</li> </ul>
政策の柱4-2 未来を築く教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育大綱の作成</li> <li>教師のICT活用指導力の向上</li> <li>園児が英語に親しむ機会の創出</li> </ul>
政策の柱4-3 生涯学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>電子図書館の導入と郷土資料デジタル化の推進</li> <li>施設予約の簡略化に向けた制度設計</li> <li>20歳(はたち)のつどいの実施</li> <li>地域学校協働本部の拡充・強化</li> <li>元旦マラソン&amp;ウォーキング大会 市駅伝大会</li> </ul>

### ■指標

指標名	基準値	進捗状況	目標値	指標の説明
文化財と触れる企画展等の開催回数	20回	21回	20回	文化財関係企画展や講座等の年間開催回数
				

基準値／令和2年度実績値

指標名	基準値	進捗状況	目標値	指標の説明
授業でICTを活用した習熟度別学習や協働学習などを積極的に実践した教員率	53.5%	100%	70%	1人1台端末等のICTを積極的に活用した授業を実践した教員の割合
				

基準値／令和3年度実績値

コロナ禍対策により電子黒板や生徒用端末等のICT機器が急速に普及し、生徒・児童への個人端末がいきわたったことや、研修等を通じて積極的に教員のICT活用指導力の向上に努めたことにより、目標を大幅に上回る100%を達成したと考えられる。

指標名	基準値	進捗状況	目標値	指標の説明
講座等の定員数に対する参加率	66%	82%	75%	市が主催する生涯学習講座やスポーツイベント等における定員数に対する参加者の平均割合
				

基準値／平成30年度から令和2年度までの3か年平均

## 第2次総合計画後期基本計画【令和4年度進捗状況】

まちづくりの 基本方針5	子育ても人生も楽しい 伊豆の国市 (健康・福祉)
	若い世代の子育てとしごとの両立を支援し、出生率の向上を目指す。 人口減少の進行と高齢化の進展を踏まえ、地域全体の連携と協力のなかで、高齢者、障がい者をはじめ、誰もが自立し、安心して暮らすことのできる地域社会を目指す。

### ■評価

「まちづくりの基本方針5 子育ても人生も楽しい伊豆の国」の実現に向けて、後期基本計画では5つの政策の柱を掲げ取り組んでいる。

令和4年度は、政策の柱にひもづく17の重点取組を掲げ取り組んだ。

主な成果としては、子宮頸がんワクチン接種者への償還払いの体制を整えたことや、障がい者へ助成しているタクシー券の利用範囲を拡大したこと、犯罪被害者への相談支援体制を整えたこと、地域福祉計画を策定したこと、また、課題が多かった包括的な相談体制を見直し庁内で協議を重ね次年度以降の体制を整えたことなどにより、市の健康増進・福祉の向上に寄与した。

一方、遠距離通学・通園に対する助成の見直しについては、様々な課題に対処する必要があり令和4年度中に見直しには至らなかったことから、引き続き調整していく。

今後は、令和6年度の開園を目指す長岡地区への認定こども園の整備を着実に進めると共に、社会情勢に適応した高齢者福祉施策を実現していくために設置した高齢者福祉施策の在り方審議会からの答申を受け、持続可能な仕組みが定着するよう努めていく。

### ■重点取組

政策の柱5-1 子育て支援の充実	重点取組
	効率的・効果的な放課後児童教室の運営 (仮称)長岡認定こども園の設計の実施
	遠距離通学・通園に対する助成の見直し
	公立幼稚園・保育園の統廃合
	長岡保育園移転に伴う認定こども園化推進事業
	効率的・効果的な放課後児童教室の運営
政策の柱5-2 健康づくりの推進	重点取組
	子宮頸がんワクチン接種事業
	生活保護被保護者健康管理支援事業の推進
政策の柱5-3 高齢者福祉の推進	重点取組
	<small>ひいずるくに</small> 陽伊豆る国構想への協力
	高齢者保健福祉施策の検討
	高齢者の保健事業と介護予防の一体化の実施に向けた庁舎内調整

政策の柱 5-4 障がい者福祉の推進	重点取組
	心身障害者（児）タクシー等利用助成の検討

政策の柱 5-5 地域福祉体制の充実	重点取組
	民生委員児童委員活動の推進
	包括的な相談支援体制の確立
	包括的支援事業の体制見直し
	犯罪被害者への相談支援
	地域福祉計画の策定

### ■指標

指標名	基準値	進捗状況	目標値	指標の説明
子育てモバイルの登録率	57.4%	69.4%	100%	未就学児の保護者における子育てモバイル登録者の割合
				

基準値／令和2年度実績値

令和4年7月より、子育てモバイルをアプリ化するとともに、子育て情報を一元的に収集し、アプリを通じて効果的に発信する子育て情報発信事業を開始したことで、アプリの利便性が向上し、登録率が大きく上昇したと考えられる。

指標名	基準値	進捗状況	目標値	指標の説明
生活習慣病による死亡率	645.7人	645.2人	645.7人	人口10万人あたりの脳血管疾患及び悪性新生物、心疾患による年間死亡者の割合
				

基準値／令和元年実績値

※過去の推移によると、生活習慣病による死亡率は年々上昇傾向にあるため、上昇抑制を目指し基準値と同値を設定。

指標名	基準値	進捗状況	目標値	指標の説明
要介護認定率	15.6%	15.7%	17.1%以下	第1号被保険者数のうち要支援及び要介護認定者数の割合
				

基準値／令和2年度実績値

指標名	基準値	進捗状況	目標値	指標の説明
就労支援サービスの利用見込みに対する達成率	88.7%	74.5%	100%	市が提供する各就労支援サービスに設定した利用者数見込みに対する利用者数
				

基準値／令和2年度実績値

指標名	基準値	進捗状況	目標値	指標の説明
地域福祉団体の加入者数	835 人	800 人	879 人	市民等で構成する福祉関係団体に加入している人数
				

基準値／令和 3 年度実績値

## 第2次総合計画後期基本計画【令和4年度進捗状況】

まちづくりの 基本方針6	安全で安心な 伊豆の国市のまちづくり（都市基盤・生活環境）
	災害発生を見越した防災・減災のまちづくりを進めるとともに、長期的な視点のもと、社会基盤の適切な維持管理や時代に即した更新・新設により、持続可能なまちを目指す。

### ■評価

「まちづくりの基本方針6 安全で安心な伊豆の国市のまちづくり」の実現に向けて、後期基本計画では4つの政策の柱を掲げ取り組んでいる7。

令和4年度は、政策の柱にひもづく18の重点取組を掲げ取り組んだ。

主な成果としては、まん延する新型コロナウイルスを予防するため国の指示に基づき適宜対応しワクチン接種を実施したことや、庁舎機能整備の検討を行い伊豆長岡庁舎の増築は実施しない等の方針を決定したこと、伊豆エメラルドタウン簡易水道事業の創設認可の取得に向け条例改正や県との協議・申請を行ったことなどにより、市の都市基盤・生活環境の改善に寄与した。

一方、令和4年度に公共施設再配置計画を見直すこととなっていたが、公共施設再配置計画審議会を設置し慎重な議論を重ねた結果、令和4年度中の計画の見直しには至らなかった。（令和5年7月に改訂。）

安全で安心なまちづくりに向けた取組の多くは多くの時間と経費が求められることから、今後も計画性をもって継続して取り組んでいく必要がある。

### ■重点取組

政策の柱6-1	重点取組
自助・共助・公助による防災の強化	防災力強化の推進
	消防団活動の推進
	災害時の避難所、福祉避難所体制の構築
	災害救急医療対策事業
	準用河川洞川の拡幅改良

政策の柱6-2	重点取組
安心できる医療体制の整備・充実	新型コロナウイルスワクチン予防接種事業

政策の柱6-4	重点取組
効果的な都市機能の推進	庁舎機能整備の検討
	公共施設再配置の推進
	教育施設の適正な維持管理
	財産管理の取組
	下水道の維持更新
	深沢橋の架替
	伊豆エメラルドタウン簡易水道事業の創設認可の取得
	民営簡易水道の移管

	かわまちづくり公園の整備
	源氏山公園の整備
	市街化調整区域の活用方法の検討
	地域公共交通事業の評価及び地域のニーズ調査

## ■指標

指標名	基準値	進捗状況	目標値	指標の説明
急傾斜地崩壊対策整備率	84.8%	89.1%	95%	市内で急傾斜地崩壊危険区域の指定されている箇所における急傾斜地崩壊対策を実施し完了している個所の割合

基準値／令和3年度実績値

指標名	基準値	進捗状況	目標値	指標の説明
救急医療対応病院数	2施設	2施設	2施設	市内における24時間対応可能な救急医療病院数

基準値／令和3年度実績値

※全国的な医師不足が進行する中、現在の医療体制の保持を目指し基準値と同値を設定。

指標名	基準値	進捗状況	目標値	指標の説明
交通事故による人身事故発生年間件数	306.6件	204件	250件以下	市内で発生した交通事故による人身事故の年間件数（目標値は、後期基本計画期間中における年間平均件数）

基準値／平成28年から令和2年までの年平均

コロナ禍により、人が外出を控えたことが大きく影響したことで、前年の基準値306.6件を大きく下回ったと考えられる。

指標名	基準値	進捗状況	目標値	指標の説明
まちなかへの集約率	95.4人/ha	94.0人	93.9人/ha	市街化区域の可住地における人口密度（人/ha）

基準値／令和2年度実績値

※過去の推移によると、市街化区域内の人口密度は年々減少傾向にあるため、減少幅の抑制を目指し目標値を設定。

## 第2次総合計画後期基本計画【令和4年度進捗状況】

<b>まちづくりの 基本方針7</b>	<b>みんなで創る 伊豆の国市（行財政運営・自助・共助・公助）</b>
	<p>市と市民や民間がパートナーであるという認識を深め、お互いに助け合い、誰もが暮らしやすく、そして心温まる地域づくりを目指す。</p> <p>市民の生命と生活を支える基礎自治体としての役割を果たすとともに、様々な英知を積極的に取り入れる気概と全職員の努力による効率的な行財政運営を推進し、市民から信頼される市政を目指す。</p>

### ■評価

「まちづくりの基本方針7 みんなで創る伊豆の国」の実現に向けて、後期基本計画では2つの政策の柱を掲げ取り組む。

令和4年度は、政策の柱にひもづく24の重点取組を掲げ取り組んだ。

主な成果としては、地区からの要望方法の改善や、オンライン窓口の開設、職員の資質向上を目的とした研修の実施、職員人事評価制度の見直し、下水道使用料の見直しなどを行い、市民から信頼される市政に寄与した。

今後は、市民団体の連携を図るプラットフォームの設立や、庁内事務のデジタル化の一層の推進を図っていく。

### ■重点取組

政策の柱7-1	重点取組
みんなが主役のまちづくり	地区要望の提出方法の見直し
	市民活動団体等との連携促進

政策の柱7-2	重点取組
信頼される行財政運営	コミュニティFMの推進
	市政情報の積極的な発信
	庁内事務のデジタル化の推進
	マイナンバーカードの発行
	公文書の管理（電子決裁の導入）
	DXの推進
	基幹業務等システムの統一・標準化に関すること
	三層の見直しによるネットワーク方式の変更に関すること
	総合計画の推進
	効率的・効果的な財政運営
	ふるさと寄付金推進事業
	効率的な国民健康保険税の徴収
	登記履歴の効率的な管理体制の構築
	課税事務における業務の効率化
効率的な納税体制の構築	
行財政改革の推進	

	職員の人材育成
	地方公務員の定年延長への対応
	職員人事評価制度の見直し
	適正な職員人事配置
	水道事業の広域化について
	下水道使用料の見直し

## ■指標

指標名	基準値	進捗状況	目標値	指標の説明
市民活動団体等への支援件数	8件	10件	12件	市民活動団体等が行う活動や市民活動団体間の仲介など市が支援した年間件数
				

基準値／令和2年度実績値

指標名	基準値	進捗状況	目標値	指標の説明
SNSを活用した情報発信回数	736回	1,146回	786回	SNS（Facebook、LINE、Instagram、YouTube等）を活用し情報発信した回数
				

基準値／平成30年度から令和2年度までの実績値の平均

前年の736回の1.5倍以上の伸びとなった。要因としては、特に大河ドラマ推進事業におけるX（旧Twitter）を利用した情報発信を積極的に実施したことが大きく影響していると考えられる。

## 6 総合計画全体の内部評価

### (1) 基本方針ごとの進捗状況一覧表

基本方針	進捗状況			
	↗	→	↘	↗又は→ の割合
1 豊かな自然に抱かれる伊豆の国市 [自然・生活環境]	1	1	1	66%
2 伊豆の国市にしごとをつくる [産業・経済・労働]	1	—	1	50%
3 伊豆の国市に新しいひとの流れを作る [観光・交流]	1	—	1	50%
4 歴史に学び、未来を拓く伊豆の国市 [歴史・文化、教育、研究]	3	—	—	100%
5 子育ても人生も楽しい伊豆の国市 [健康・福祉]	2	—	3	40%
6 安全で安心な伊豆の国市のまちづくり [都市基盤、生活環境]	2	2	—	100%
7 みんなで創る伊豆の国市 [行財政運営・自助・共助・公助]	2	—	—	100%
小計	12	3	6	
割合	57.1%	14.3%	28.6%	

### (2) 検証

全部で21の政策の柱のうち、①好転した(↗)が、12項目:57.1%。②現状維持(→)が3項目:14.3%。③後退した(↘)が、6項目:28.6%であった。

また、政策の柱を取りまとめる「基本方針」は7つあり、基本方針ごとに政策の柱ごとの進捗を測り、好転又は維持した指標を比較したのが上記(基本方針ごとの進捗状況一覧表)である。

総合計画全体として、進捗状況はおおむね好転していると評価する。

ただし、「基本方針5 子育ても人生も楽しい伊豆の国市」の進捗状況が40%と低かったのは、子育てに関する情報発信アプリの普及率は好調だったものの、要介護認定率の微増や、障がい者の就労支援サービスの利用率の減少や地域福祉団体の加入者数が減少などの進捗が低迷したことなどが要因と考えられる。コロナ禍が収束しつつあるので今後はこの分野をはじめ、進捗が低迷している分野の活動が活性化するように支援していく。

7 第2次伊豆の国市総合計画 後期基本計画 令和4年度進捗状況一覧表

番号	基本方針		政策の柱	指標	基準値 (R3)	進捗状況 (R4)	ものさし
1	豊かな自然に抱かれる伊豆の国市 [自然・生活環境]	1-1	自然と共生するふるさとづくり	市全域における二酸化炭素の排出量	298千トン	258千トン	↗
		1-2	魅力ある景観形成の推進	景観まちづくり学習の実施回数	1回	1回	→
		1-3	快適な生活環境の充実	市民1人1日当たりのごみ排出量	932g	972g	↘
2	伊豆の国市にしごとをつくる [産業・経済・労働]	2-1	就労・雇用への支援	市内総生産額	1,912億円	1,925億円	↗
		2-2	魅力ある農業の振興	市内農業生産額	47.6億円	45.9億円	↘
3	伊豆の国市に新しいひとの流れを作る [観光・交流]	3-1	訪れたいくなるまちづくり	観光交流客数	1,930千人	1,901千人	↘
		3-2	ふれ合う、味わう、感じる観光の推進	公共交通等を利用し市内を周遊した人数	12,315人	18,120人	↗
4	歴史に学び、未来を拓く伊豆の国市 [歴史・文化、教育、研究]	4-1	歴史・文化・芸術を活かすまちづくり	文化財と触れる企画展等の開催回数	20回	21回	↗
		4-2	未来を築く教育の推進	授業でICTを活用した習熟度別学習や協働学習などを積極的に実践した教員率	53.5%	100.0%	↗
		4-3	生涯学習の充実	講座等の定員数に対する参加率	66.0%	82.0%	↗
5	子育ても人生も楽しい伊豆の国市 [健康・福祉]	5-1	子育て支援の充実	子育てモバイルの登録率	57.4%	69.4%	↗
		5-2	健康づくりの推進	生活習慣病による死亡率	645.7人	645.2人	↗
		5-3	高齢者福祉の推進	要介護認定率	15.6%	15.7%	↘
		5-4	障がい者福祉の推進	就労支援サービスの利用見込みに対する達成率	88.7%	74.5%	↘
		5-5	地域福祉体制の充実	地域福祉団体の加入者数	835人	800人	↘
6	安全で安心な伊豆の国市のまちづくり [都市基盤、生活環境]	6-1	自助・共助・公助による防災の強化	急傾斜地崩壊対策整備率	84.8%	89.1%	↗
		6-2	安心できる医療体制の整備・充実	救急医療対応病院数	2施設	2施設	→
		6-3	生活安全対策の推進	交通事故による人身事故発生年間件数	306.6件	204件	↗
		6-4	効果的な都市機能の推進	まちなかへの集約率	95.4人/ha	94.0人/ha	→
7	みんなで創る伊豆の国市 [行財政運営・自助・共助・公助]	7-1	みんなが主役のまちづくり	市民活動団体等への支援件数	8件	10件	↗
		7-2	信頼される行財政運営	SNSを活用した情報発信回数	736回	1,146回	↗

基準値より好転	↗
基準値と同水準	→
基準値より後退	↘